



支援の軸足ソフト面へ

伝承、心のケアなど課題探る

公明党の東日本大震災復

興加速化本部（本部長

井上義久幹事長）は26日、

宮城県の沿岸被災地2市2

町で現在、直面しているソ

フト面の課題を調査した。

井上本部長、高木陽介衆院

議員、真山祐一前衆院議

員、公明県議らが参加し

復興祈念公園予定地の「が

んぼろうー石巻」の看板の

前で、関係者から震災の記

憶と教訓の伝承について聞

く井上幹事長（中央）ら

26日 宮城・石巻市

た。石巻市で一行は、「が

んぼろうー石巻」の看板前

で献花。看板を設置した黒

澤健一さんから震災当時の

体験を聞いた。また、震災

の伝承活動を続けている

「みらいサポート石巻」の

中川政治専務理事は、街

の記憶を残すため、元住

民への聞き取りを行っている

ことを説明。「あの日

住民がどう行動したかを映

れ感を抱いている人が増え

像化し、避難の教訓を伝え

たい」と語った。

続いて、被災者のアウト

リーチ（訪問支援）を継続

し、多様な専門機関との連

携で心のケアにつなげる

「からころステーション」

を訪問。臨床心理士の渋谷

浩太さんは、仮設から災害

公営住宅への転居期である

現在、「人間関係の再構築

を迫られ、孤独や取り残さ

ることを説明。「あの日

住民がどう行動したかを映

れ感を抱いている人が増え

また、同席した市健康部

の職員からも、「昨年は本

市の自殺者が増え、アルコ

ールに伴う問題も多発して

いる」との課題が報告され

た。

視察後、井上本部長は、

「被災者のニーズに応じた

支援の必要性を強く実感し

た。今後は、軸足をハード

からソフトへ重きを置いて、復興の最重要課題とし

て、精神的に取り組む」との

考えを示した。

なお一行は、気仙沼市、

女川町、南三陸町を訪れ、

二重ローン対策や子ども支

援などについて意見交換し

た。